

関島寿子 SEKIJIMA, Hisako

かご製作、多摩美術大学客員教授

- 2008 Fiber Biannual, フィラデルフィア、スナイダーマンギャラリー。
- 2007 東京国立近代美術館工芸館開館30周年記念展。
韓国、清州国際工芸ビエンナーレ、招待出品。
East Weaves West (日英現代かご展)、ダイワ日英基金の助成
でワークショップなどの為、渡英。
- 2005 「アジアの潜在力」展、愛知県立美術館。
- 2004 「指先から広がる4つの世界 かご展」、4カ国の女性かご作りたち、
英国グラスゴー、コリンズギャラリー、平塚市美術館他。

作品収蔵：Victoria & Albert Museum, 西オーストラリア美術館、
東京国立近代美術館、Racine Art Museum(Wisconsin)等。

<http://ait.shinchaku.com/artist/127.php>



「なわの記録 II」
直径18cmx高さ29cm,ペデリアと絹布, 2007

普通良いものを作ろうと思うなら、「材料はこれではなくては」と厳選していくべきものと考えられている。どこでどの季節に採ったとか、何年目の樹だとかにこだわる。そして出来るだけ均質なものを揃えようと技を磨く。それはそれで合理的な理由があり、すごいと思う。でも、少し角度を変えて、あまり選り好みせず、広い範囲のものを材料にしてみたらどうなるだろうか。私独自の目的を設定し、其れが達成されることを第一と考えてみる。私はかご作りをこのような実験としてつづけてきた。ある道具の新しい使い方を工夫できたとか、構造や空間について新たな解釈ができるようになったとかいう理由で、今まで使えなかった素材が使い物になるという経験をよくする。すると、自分の頭や手のもう一つの使い道が見つかったようでとても嬉しいのだ。私にとって、「新しい表現」とはこういう経験の果実である。

関島寿子

「かご」であり続けるアート

関島寿子さんの作品をはじめて見た時に、「これがかご？ どうして？」と私は思った。一般的に「かご」は竹、つる、籐、針金などの素材で、編む、組むなどの方法でつくられ、食物や花を入れる、という用途がある立体物である。私たちは日本の伝統工芸の竹かご、料理に使う竹の笊、買い物籠、鳥籠なども知ってはいるが、それらとアートの「かご」は頭の中でそれぞれ別の場所にあって、連続させては考えにくい。ところが関島さんは、枝に張られた蜘蛛の巣もテキスタイルも漁具も建築も「かご」とのつながりで見えていく。関島さんのワークショップを受講すると、「かご」を見つめる眼と、「かご」とは何かという概念を考えるきっかけを獲得し、世の中の至る所に「かご」を発見することができるようになる。関島さんの考える「かご」は概念としても非常に大きく、素材に向き合う態度や、製作の方法論には確固とした論理があるので、構造としても、素材としても、技術としても、概念としても作品は「かご」であることをやめない。

また、関島さんは身の回りにある物事のおもしろさの発見や新たな認識が意識的に製作へとつながっている、つまり平凡な日常が創造的な時空間へと転換している中で生活と製作をしている。自分自身が学ぶプロセスに自覚的であり、学んだ事が他の人にもエデュケイショナルであり、役に立つような配慮が伴う姿勢がある。2008年3月末、多摩美術大学の生産デザイン学科卒業制作の講評で、学生の表現に寄り添い、共感を伴って作品を講評する言葉を聞き、大学が関島さんのような教育者を必要としていることに合点がいった。眼の前に起っていること、現実から出発して自分自身を鍛える方法を獲得したアーティストであるからこそ、若い制作者たちに、優れた指導者としての役割を果たせるのである。関島さんの作品は概念のレベルでも製作のレベルでも「かご」である。「かご」でありつづけ、しかもアートであるという作品と対峙すると、私たちは自分の工芸、美術、「かご」についての考え方や範囲を様々なレベルで改めて点検することを迫られるのである。

端山聡子 (平塚市美術館)

NPO法人 アート・インタラクティブ東京

〒105-0003 東京都港区西新橋1-4-12 長尾ビル7F

Tel:Fax 03-3593-7274

email: info@artinteractivetokyo.com

<http://www.artinteractivetokyo.com>



地下鉄●銀座線虎ノ門下車3分(出口9) ●千代田線霞ヶ関下車3分(出口C3,C4) ●都営三田線内幸町下車2分(出口A4)
●JR新橋下車8分(日比谷口)

「会員の眼」と名づけられた企画は、AIT会員が企画・主催する展覧会です。AIT自身が企画・主催する「連続作家紹介」とは異なり、作品を展示する作家の年齢などは問いません。AIT会員がぜひ世に出たいと望む美術作家の展覧会です。詳しくはAITのホームページをご覧ください。

NPO法人(特定非営利活動法人)「アート・インタラクティブ東京」は、現代の美術状況に関する多くの情報を、美術コレクターに公開することを目的としています。実際に美術作品を購入し愛好する人たちが、より広範な情報のなかから、個人の好みや考えにもとづいて美術作品を選べるようになることを支援し、そのことによって、日本美術が愛好者自身の「眼」によって発展するようになることを目指します。